



昔ながらの
人と人との関係（やりとり）を大切にしたい。

総合食材業をめざして

有限会社魚広 代表取締役 廣田 諭宇祐 氏

加者が、どんどん入り込んできて、最後はいつの間にか地域のことを熱く語っている。そんな姿を横で見ている。「すべてが繋がっている」と気づいた瞬間がありました。

何かが一つ良くなると、またそこに繋がっている何かが良くなっていく。だったら地域を良くするために、自社から自分たちから地域の人のためになることをやればいい。そう思った廣田氏は、このコロナ禍の中で早速新たな挑戦をはじめました。

一人暮らしのお年を召した方や、共働きで忙しい主婦の方向けに、野菜や肉魚をセツトで食材宅配サービスをする、「らくらく買物べんりお届け」サービスをスタートしました。コロナ禍の中で1ヶ月以上も社内で真剣に議論し、最終的に手書きで作成したチラシを町内にまず2千300枚配布しました。何よりも特長は、「お客様やりとりシート」でのお届け先からの要望への徹底対応です。

例えば、セツトの中にほうれん草をお入れたときのことで。結石症の方が食べることができないとの相談がありました。そこで次回からは社内でも情報を徹底させ、モ

ロヘイヤに変更、提案レシピまで入れる徹底ぶりです。これは冷凍食品の卸会社に勤めていたときの経験が大きく役に立っています。

営業として食材を届けに厨房に行くとき、最初は話してくれなかった調理長が、笑顔で「こたれずに何度も訪れる廣田氏に、心を開いて様々な要望や食への思いを伝えてくれるようになりました。」「人とのつながりのなかで、本当に鍛えられた」と話します。

行商から始まった思いを現代に

最近では地元の保育園や施設への食材のお届けが多くなっていますが、こうした経験から「うおひろ お知らせ」という手作りニュースを入れるようになりました。これは、ご子息への思いが繋がっています。「息子たちにはこの地域で幸せに生きてほしい。そのためにも、自分自身ではできなかった、自分の頭で考え判断できるように育ててほしい」とそんな思いが食育へと繋がっていきます。

「最近『旬』を感じられない世の中になっています。特に食材は年中手に入るし店頭

にも並んでいます。でも実は季節のものが一番栄養価も高いし、色も綺麗。一軒一軒食材を届けるときに事業所の担当の方に聞いていったら、『季節を感じられる食材をいつも使いたい。そうでなければ価格の安い他社も選べるよ』と言われたんです。

行商から始まった魚広。当時内陸では魚の流通が少なく、魚を食べたいお客様にリヤカーを引いて音を鳴らして訪問し、集まっていたあなたお客様と楽しく会話をしながら販売したそうです。昔ながらの人と人との関係（やりとり）を大切に、販売お届け

する地域密着の総合食材業として、四代目もその理念を引き継いでいます。

7月23日24日の両日、矢巾町の職員と地元企業経営者など23名が集い、矢巾町役場で二日間の振興基本条例策定へ向けたワークショップが開催されました。主催、声がけ人は、廣田氏と矢巾町役場の有志です。休日返上で開催したワークショップはSDGsから紐解く地域課題の確認に始まり、参加者全員でのブレインストーミング、そして二日目には矢巾町の将来像を一人ひとりがデザインするとうう、とことん考え尽くす内容

でした。

廣田氏は話します。「今後地域から間違いなく人口が減少していく。だからこそ今から動く。地元企業、行政が一致団結し連携協力して進めば必ず地域は元気になる。食糧、魚や野菜も水もこのままでは地球上からなくなってしまう。私たちが次世代に残す地球、そして地域について今こそ本気で関わり合い、向き合い取り組んで行く時だと思います」

創業者の行商で歩んできた思いがコロナ禍の困難な状況の中、今花開こうとしています。



SDGsと地域課題を結びつけて、地域の未来をデザインしてみよう！

〜矢巾町で紫波花巻支部が2DAYワークショップを開催〜

7月23日、24日の両日、紫波花巻支部主催、矢巾町職員の方々と、「SDGsと地域課題を結びつけて、矢巾町の未来をデザインしてみよう」と称したワークショップを開催しました。当日は矢巾町の課を超えて職員の方々が9名参加いただき、地元の経営者や地域おこし協力隊も含め23名が集い開催しました。

役場職員の皆さんと地元経営者で昨年から中小企業振興



基本条例の制定へ向けて研究

をスタートしました。地元商工会青年部のメンバーをはじめ地元の経営者と行政の現場を担う担当者の皆さんが「条例は自分たちが将来に向けて何のために何を目ざすのが最も重要。地域の現状認識からじっくり取り組むべき」との思いで一致し、これまで何度も学習会を続けながらここまで進めてきました。

自分の脳みそに問いきける時間は特別な時間

新型コロナウイルス感染の広がりの中でしたが、いよいよ取り組みのスタートとして計画したワークショップは、今回の「SDGsと地域課題を結びつけて、地域の未来を語る」ものでした。当初「7、8人参加があれば十分」と予想したメンバーは最終的に23名に。2日間ともに朝9時30

分から18時30分までの一日9時間というハードなスケジュールながら、最後は時間が足りず、「また次回に」と話すほど、充実した、内容の非常に濃い2日間となりました。

1テーブル3名〜4名が2日間通しで取り組むテーマは、「エネルギー循環・環境保全」「中小企業育成・産学官連携」「100歳時代ピンピン活き生き地域」「農林業の育成」そして「教育」です。まず地域の主たる問題点、課題は何かを出していきます。そしてその原因になっているのは何かを明確にしていきたいと思います。不思議なことになんでもマイナス点というのはいくらでも目につきますし、するすると出てきます。まさに矢印は悪循環の一途。その中から中心となる課題を抽出し、いざ解決へ向けたアイデアを出していくのが一日目でした。

とことん自分の脳みそに問いき続ける時間は、普段は経験することのなかなかない、特別な時間です。皆さんの表情も苦しみながらも嬉しそう

み出したい、という感情が現れてきます。

ビジョンは描いた瞬間に動き出す

二日目は、これまでの経験値からは想像できないような、新たな発想からアイデアを生み出すデザイン思考を取り入れたグループでの実践となりました。最終的には全員が自分の解決したい大きな壁のようなテーマを、自らの描くストーリーで見事に打ち破っていきます。自分が本気で考えた解決へのストーリーは、「絵」に描いたとき、まさに絵に描いた餅は、歩き始めます。のべ18時間のワークショップはここで終了となりました。

「あつという間の二日間だった」「予想した進行が見事に覆された。進行役がどんな方向に持って行きたいのか予想しながら参加したが、まったく見えず最後はわがごとくに真剣に向き合っている自分がいた」「むしろ経営者が一番頭が固くなっている。だまされたと思ってどっぷり浸



かってみるべき」「地域内で市民で参加型で何度もやれば、町が変わる」「ビジョンは描いた瞬間に動き出す」：皆さん興奮冷めやらない様子で帰宅しました。

難しいことに向き合うとき、解決の方法は対話しかありません。4連休の丸二日間、コロナ禍、行政と企業の立場の違いなど、いくつもの障壁が重なるなか、地域の未来を一緒に本気で考えたことは、かけがえのない信頼で結びつく、間違いなく大きなきっかけになりました。今後中小企業振興基本条例の制定へ向け、更に議論を重ねていくことを確認しました。

委員会・部会・支部地区通信

組織委員会

2020第1回 新会員オリエンテーション

本音で相談できる仲間の
素晴らしさを実感！

8月19日（水）紫波花巻支部主催、8月21日（金）は組織委員会主催で「第1回新会員オリエンテーション」がそれぞれの地域で開催されました。

紫波花巻支部では新会員1名、ゲスト2名が参加。紫波花巻支部の幹事の皆さんが、新会員とゲストを囲みまし



佐々木氏（正面右）を囲んで

葉町総菜店 代表 佐々木朋美氏の経営する矢巾町のカフェで、こだわりの有機野菜と手作りベーコンなどを使った体に優しい食事をいただきながら和やかな食事からスタートしました。佐々木氏は「この仕事を始める前は、県外のレストランで仕事をしていたが、生まれ育った花巻に戻り、この地域の食材の素晴らしさを改めて実感し、食材を使って体に優しくおいしい料理を提供したいと起業しました。やっと軌道に乗ってきた。矢先のコロナウイルスの問題で、正直言って飲食店は本当にくじけそうになります。でも今日のオリエンテーションで同友会は本音で語り、悩みも考えていることも相談できる皆さんがいることを知り本当に心強く思いました。ぜひ今後皆さんと一緒に学んでいきたいです。」とお話されました。

新しい辞書の1ページとなる

21日のオリエンテーションは新会員2名が参加。中村組

織委員長（有くらし建築工房代表取締役）より「同友会って同友会？」というテーマで同友会に入会したきっかけやこれまでの経営についての報告をしていただきました。中村氏は「同友会に入会して、経営指針を創る会で会社の理念を創り、日々実践してきました。でも、創ったからといってすぐ会社はよくなりません。これまで本当に厳しく苦しい事もありました。でも、自社の理念という柱をもって日々学び続けていった結果、少しずつですが変化して良い方向に変わっています。そして、何よりも今年新卒の新入社員を採用できるようになりました。」と報告されました。

新会員の(株)ムライロCOMPANY 代表取締役の村井淳氏は「行政マンを定年退職し、一念発起し起業しました。これからは先輩経営者の皆さんと一緒に学びたい」と感想をいただきました。

また(株)耕野 代表取締役 安藤誠二氏は「わが社はリーフ（マイクロ・ミニ・ベビー）を中心に野菜を生産しています。これまで自然に寄り添って心をこめて生産してきましたが、しかし、このコロナ禍の中、今後の先行きが



新会員の安藤氏、村井氏

不安で見えなくなり改めて農業経営の大変さを実感し、悩んでいます。ぜひこれからも皆さんの知恵を借りながら学んでいきたい。」と感想がありました。

新会員オリエンテーションは新会員の皆さん、そしてこれから同友会に入会したいと考えている方対象に今後毎月開催していく予定です。

青年部

「次代を創る経営者を
目指し切磋琢磨する！」
どんな状況でも
学びと実践を続ける

新体制で2020年度をスタート

2020年度の青年部は、

新型コロナウイルスのため総会は書面での総会となり、8月6日に青年部会員の過半数の同意書をいただき、第1号議案から第6号議案が承認されスタートしました。

今年度は役員も変わり、部長(有)猿子園芸 代表取締役 猿子祐太氏、副部長は岩手日化サービス(株) 代表取締役 吉田巧氏、同じく副部長に(有)昆石材店 昆卓広氏に新しく体制が変わりました。

青年部は2018年発足しこれまで2年間、部会として基礎を固め、自分たちの課題や学びたい事をマネージャーミーティング(幹事会)で毎月議論し、部会員から報告者を立て、グループ討論を重ねて学びました。また研修ツアーと称し他県で先進的に取り組んでいる企業を1泊で訪問し実際に経営者の話を聞くなど、交流も深めてきました。

同時に中同協青年部連絡会、東北ブロック連絡会に積極的に参加し、全国とのつながりもできました。今年度はその基礎を受け継ぎ、さらに会の目的である、青年経営者が先輩の経験に学ぶと共に、同世代がお互いに切磋琢磨し合いながら資質を磨き、次代を創る経営者になることを目指し

て活動し深めていきます。

バトンは確かに受け取った!

新部長となった猿子部長は、「青年部が発足してから3年目。これまで発足してから試行錯誤しながら基礎を作ってきたので、青年部を盛り上げてくださった、前部長の川村さん、前副部長の川上さんのバトンを受け継ぎ身が引き締まります。今年は新型コロナウイルス禍の中で、スタートは遅れましたが、青年部としてはどんなに過酷な状況でも『学んで実践』ということを決めてはならないと思っています。こんな時代だからさらに深く、若さと行動力で青年経営者として同じ世



新体制の青年部役員

代の仲間と切磋琢磨して共に成長していきたい。」と意気込みを語りました。今年度は10月から専門家を招いての数字の勉強会、ウイニングリーディング、先輩経営者の企業訪問、研修ツアーなど取組む計画です。

気仙支部情報交換会

気仙支部情報交換会が8月6日(木)、陸前高田のBricks・808で開催されました。2月以来の開催となった幹事会を兼ねた情報交換会でしたが、美味しいランチも相まって、話題は尽きず、予定の時間を2時間も超えた内容となりました。

震災から9年が経過し町並みも大きく変わりましたが、漸く本腰を入れてのまちづくりが形になってきました。これまで仮の店舗で踏ん張りながら続けてきた方が、中心市街地にオープンする新店舗の話や、新たな「発酵の里」の取り組みなど、コロナ禍の中でも広がる挑戦への思いに、共鳴したり、盛り上がったりと、たまっていた思いを出し合いながら、互いの頑張りを励まし合う姿がありました。地域の飲食店を応援しよう



情報交換会で語り合う気仙支部

と、毎日社員全員で弁当のテイクアウトをしている方は、「あまりの旨さにこんな太ってしまった」などと話し、笑いが止まりません。「やっぱり声がけしかないね」。震災時もそうでしたが、最後はどんな環境でも地域の経営者同士が声を掛け合い、援けあいここまでできました。来月以降、例会を再開し、「コロナ時代」の実体験報告を続けていくことを確認しました。そのためにも丁寧な声かけで「社もつぶさない」を実践しよう、あらためて結束を固めた情報交換会となりました。

遠野金石地区情報交換会

遠野金石地区では、コロナ禍の中でも「活動を止めない」をキーワードに毎月行事を開催し続けてきました。今回も5人の参加者が普段通り集い、日常の取り組みミニ報告から始まりました。「実はイベントが全くなくなって、在庫が予想以上に動かない。どうにか知恵をかしてほしい」という切実な話から、昨年エネルギーシフトの欧州視察に参加して「こうした動けない



コツコツと学びあう遠野金石地区

県南支部情報交換会

状況の中だからこそ、山や森の将来のあり方や活用の仕方にももの凄く気持ちが傾いている」という方など、自分が日頃抱えている思いを率直に出されます。なかでも地元の若手農業後継者については、「農閑期にぜひ数字の勉強がしたい」との話が出ているとの話題が出され、冬場に地区全員で農業経営と実際の収支について、シリーズで勉強をしていくことになりました。

県南支部でも、8月20日(木)、ペリーノホテル一関で情報交換会が開催されました。他地域と同様に2月以来の直接会っての交換会でしたが、後継者の話や新店舗の話など、やはり6ヶ月近く会っていないなかつた思いは格別で、それぞれが話すだけで、だんだん会場は熱気に満ちた雰囲気になっていきました。「来月は例会を再開しよう」。思いは同じでした。本音でこれだけ胸襟を開いて話せる会は他にはありません。「やっぱり同友会だね」。あらためてその持ち味に気づいた情報交換会となりました。

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

バイオリズム

年に一回は潮風にあたりたくなりませす。佐世保近郊の漁業と農業の町で育ったので。岩手大学卒業後、25年以上住んでいる南西ドイツのシュヴァルツヴァルト地域は、たくさんの人たちが保養に観光に訪れるドイツ有数の景勝地で、日常的に「森林浴」も「湖水浴」も活気あるフライブルクの繁華街で「街浴」もでき



る恵まれた環境ですが、唯一足りないのが「潮浴」です。北の北海やバルト海までも600km、南の地中海までもアルプスを超えて600km。日帰りで気軽に行ける距離ではありません。大学時代を過ごした盛岡も同じく「内陸」ですが、朝3時に車で出発し、三陸で朝日を拝んで、夕方秋田の海岸で夕日を拝む、という若気の到りで強行軍の1日ツアーができてしまう環境でした。

ここ数年は、夏休みは家族で海に行つて潮浴をすることが慣例になっています。昨年はコロナアチア、今年はコロナ規制があったので、南欧の暖かい海辺は無理かなと諦めかけていましたが、6月末からEU内の行き来が自由になったので、思い切ってまだ行ったことがなかった南フランスのピレネー山脈の手前まで行きました。

私たちが家族の旅行は、いつもにキッチン付きの民泊を選んでいきます。ホテルなどに泊まるよりはるかにリーズナブルだし、子供が騒いでもあまり気にしなくていいし、その土地の人たちの生活や文化が感じられるので。

今回は、海から10キロほど内陸に入ったところの小さな村の中心部の古建築のアパートメントに宿をとりました。80平米くらいの3DK、シャワーが2つあり、5人で泊まって諸経費込みで1泊90ユーロくらいでした。伝統的ながつしりした石造りの建物で、クーラーはなく扇風機だけでしたが、石が持っている高い蓄熱冷却作用と、昼間日光を遮る分厚い木の雨戸という伝統的なローテク技術で、日中35度くらいになっても暑さは凌げました。

朝、鳥の声で起きて、マスクをして宿の隣にあるパン屋さんに並んで焼きたてのクロワッサンを買って軽めの朝食を

とり、午前中涼しく人が少ないうち砂浜に出かけて海水浴をし、昼食はスーパードで買って宿に帰ってきて調理して食べ、少し昼寝して(地元の人たちも一番暑い午後2時から4時くらいまでは外に出ていません)、夕方は村をちょっと散歩し、海に釣りに行き、日が沈んだあと夜9時過ぎに宿に戻って、冷えたワインで軽めの遅い夕食を取りました。アパートの目の前は、綺麗に剪定されたプラタナスの街路樹に囲まれた村の中心広場。日本では「夕焼け小焼け」の歌が流れる時間帯に外に出てきて夜中11時くらいまで駆け回って遊ぶ地元の子供達、路地のカフェのテラスで深夜までワイワイガヤガヤおしゃべりする大人たち、プラタナスの樹冠で就寝前の一騒ぎをする小鳥たち、その「3部合唱」を聴きながら、ゲームをしたり本を読んだりして、疲れたところで自然に寝る、という南欧のバイオリズムに沿った過ごし方をしました。

私が子供のころは、クーラーもそれほど普及していません、日本の田舎には、そのよななんびりしたバイオリズムに沿った夏の過ごし方があったな、と思い出しました。

●池田憲昭さんへのご連絡・ご質問はメールでどうぞ。 e-mail ikeda@arch-joint-vision.com

ドイツ学びの旅 ～視察セミナー

森林業 木の建築 BIO SLOW 食 都市農業 自然医療

文化 地域創生 企業経営 グリーンインフラ

www.arch-joint-vision.com



新商品紹介

株式会社馬場園芸は、新商品として「フルーツアスパラガス白い果実フロズン」を発売いたしました。

まるで、フルーツのように、甘く、みずみずしく、やわらかい冷凍のホワイトアスパラガスです。冷凍庫から取り出し、そのままフライパンでじっくり焼くだけで美味しくお召し上がりいただけます。味付けはシンプルに、塩とオリーブオイルで。今の時期バーベキューの食材としてもおすすめです。

「白い果実フロズン」は、昨年末に開催された「にっぽんの宝物グランプリ」JAPANA大会最強素材部門でグランプリを受賞。

価格は、白い果実フロズン（3Lサイズ10本入り）4,040円（税込）お問合せは、株式会社馬場園芸まで。



■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■活用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com /mobila

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで真の循環型社会を目指します。

紫波環境株式会社

岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/

し原・浄化槽汚泥収集運搬

人と自然にやさしい環境を創り地域型企業として貢献します。

水まわりのリフォーム
キッチン バス・トイレ 洗面

住宅設備のアップグレードサービス
エコキュート エイラー エアーストープ

北上営業所
盛岡営業所

浄化槽
安心安全！
調査・施工
メンテナンス
修理

岩手日化サービス株式会社
盛岡市黒川2-2 地割56番地
電話 019-696-5611

安心して暮らせる地域づくり
共に繁栄する仲間づくり
社員の生きがいづくり

各種配電盤、制御盤、計装盤の開発、設計、製作、施工
特殊肥料、いちご閉鎖型高設栽培システムの製造・販売

東日本機電開発株式会社

〒020-0401 盛岡市手代森5-19-10
TEL:019-675-2277 FAX:019-675-2288

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ

〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL0191-21-4531
〒021-0893 テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

節電は経費削減につながります！

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 消費電力カット CO2削減 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。
ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL:019-624-2121

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ **Doki-Doki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース

代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

**オリジナルラベル
ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

自園自蔵ワイン **紫波** 社名ロゴ写真OK 包装、のし無料 12本以上作成料無料
岩手県紫波町蔵ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301

自園自蔵ワイン **紫波** (株)紫波フルーツパーク
醸造元
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

DOYU
I W A T E
同友いわて
2020
Vol.142

発行/岩手県中小企業家同友会
広報委員会

2020年9月1日発行

〒0200878 岩手県盛岡市着町4-5 カガヤ着町ビル3F
TEL019-626-4477 FAX019-626-1644
Mail: info@iwate.doyu.jp